

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】2ユニット／かめさんの階(3F)

事業所番号	2795900196		
法人名	社会福祉法人 健成会		
事業所名	グループホーム北加賀屋のつるさんかめさんの家		
所在地	大阪市住之江区北加賀屋5丁目2-2		
自己評価作成日	令和4年6月16日	評価結果市町村受理日	令和4年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、ユマニチュードの介護技術を実施し利用者様との接し方をさらに向上し、また、アニマルコンパニオンを導入し、ウサギや犬を飼って、一緒に世話をしたり、触れ合ったりして、家庭的な雰囲気の中で自分らしい日常生活を送っていただけるよう必要な支援を目指している。外出援助や地域間での交流も活かしながら、残存能力を引き出し穏かに生活を持続して頂けるように支援を行う。グループホームで自分らしく喜怒哀楽を職員とともに感じながら人間らしく共に日々の生活を楽しんでいけるホームを目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は大阪市住之江区を中心に医科・歯科・高齢者介護施設を数多く展開している社会医療法人・南港病院が母体で、医療・看護・リハビリ等は介護職員と密に連携して24時間体制の支援が行われている。利用者、家族の安心と信頼を得ている。現管理者は就任(4月)して間もないが、利用者が健康でこの地域で生きがいを持って楽しく、その人らしく過ごせる環境を目指している。事業所では月1回職員によるアロマオイルで手や足のマッサージのサービスを行って利用者に大変好評である。介護の技術として認知症ケアの「優しさを伝える」ユマニチュードの介護技術を取り入れて、話し方、目線の高さや体への触れ方などに配慮し職員は意識をして実施している。またコンパニオンアニマルを導入し、犬や猫、ウサギと利用者は一緒に生活をし世話を触れあいの中で癒される暮らしをしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念の唱和を行い、日々理念を意識し実践するようにしている。	法人の理念である「笑顔ですばらしい対応とやさしさを常に心がけ、相手の心を察知して対応していきます。」と朝の朝礼時に唱和している。ユマニチュードの「優しさを伝える技術」を意識して、理念の実践につなげている。今後、事業所独自の理念創りが課題である。	平成18年度の改正介護保険法で新設された地域密着型サービスの役割を理解して、事業所の現状に合った独自の理念を作り上げることが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域の天神祭り、運動会、餅つきに参加。またつるかめ祭などの行事の相互参加、近隣の商店街等の利用をおこない地域との交流に勤めている。	町内会に参加して、地域の行事(天神祭り、マラソン大会、運動会、餅つき等)には法人全体で積極的に協力している。例えばマラソンであれば給水場や救護班の提供をして、イベントであれば TENT を張り、骨密度の無料診断や健康チェック、綿菓子など提供し、地域の人々との交流には積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人を通じて、実践で培った認知症知識や接し方を広報して認知症の理解を地域の人に広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で委員会の方、ご家族に参加していただき、運営報告、活動報告等を話し合い意見交換している。	例年は年6回の運営推進会議が開催されて、近況報告、イベント等、質疑応答があり助言を頂き運営に反映していたが、コロナ禍になって運営推進会議の形態が書面開催となっている。毎回関係者には議事録を送り、次回の会議のための意見、要望を一言頂くように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な機会は作っていないが。利用者個々の相談、担当者の施設訪問の際協力関係を築いている。	現在、公的援助を必要とする利用者は3名で業務的な申請や連絡・相談をしている。わからない事があれば電話で問い合わせ指導を受けるなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づき実施している。また定期的に資料の配布を行っている。運営推進会議にて身体拘束の有無の報告をしている。	身体的拘束等の適性のための指針を作り、対策を検討する委員会を設置して、3か月に1回の委員会を開催している。従業者に対しての研修も年2回は実施している。「身体拘束ゼロ手引き」のマニュアルを作り職員同士で注意し合い、現状は身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づき実施している。また定期的に資料の配布を行っている。 職員同士お互い注意し合える風土を作っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要の場合は本人、代理人、管理者を含めて相談し、必要の場合は、社会福祉協議会のあんしんサポート、後見制度の活用も含めて進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明に十分な時間をとり、ご理解ご納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談・処理に対するマニュアルを整備し、入居時に契約者に説明している。 ご家族来所時には管理者、ケアマネが対応し忌憚のない意見を聞かせていただいている。	以前は面会時の話しあいや運営推進会議、家族参加(クリスマス等)の行事の際に意見交換や要望などする機会があった。現在は毎月のお便りを利用者個別の生活状況や身体的なコメントを詳しく知らせるなど充実した内容に工夫している。家族からはその内容を見て、安心の声が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、リーダー会議、フロアー会議、個別面談を定期的に開催し意見を集約し運営に反映している。	毎月1回のフロア会議がある。会議では主に利用者のケア(オムツから、リハビリパンツへ変えたい)や夜の見回り時に暗く利用者の転倒防止の要望で豆電球の設置など運営について話し合っている。内外の研修も積極的に法人は必要な費用の負担をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表で査定を行い適正な評価をしている。部門の会議に報告、提案して待遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体でキャリアラダーの取り組みを構築している。内外の研修を通して自己の課題、スキルアップを目指して取り組んでいる。研修参加の為、シフト調整・法人が費用の負担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに参加し交流や勉強会の機会を持っている。また同区内のグループホームと連携を取り情報交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までに家族様、ご本人に施設を見学して頂き、ご本人様子を観察し、また本人、家族様からお話を聞き参考にしている。又介護支援員と密な情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用までに家族様、ご本人に施設を見学して頂き、ご本人と一緒に話すことで、信頼関係を築いている。 又、ご家族にもアセスメントを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを活用し、本人、ご家族、ケアマネの意見を反映したサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の基本方針の「生活と権利を尊重します」を心がけ。人と人が支えあう生活の構築に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスの内容、対応の変化を随時報告し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人。場所や話題を提供し、またなじみの知人の方が来所して頂けるよう支援している。	以前は友人、知人、家族の訪問があったが現在は自粛している。友人や家族と電話対応が出来る利用者は電話で話している。コロナ禍で規制が緩んだ時には感染予防に留意して、相談室、居室で10分程度の面会はできている。入居してから利用者同士の新たな関係性もでき、仲良く会話しながら一緒に近隣の天満宮へ散歩に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者さん同士が関わりを持てるような雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様からの連絡には変わらず対応させて頂いている。また催し物のご案内もさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の自己実現に取り組んでいる。	利用者の思いや希望はフロア会議で情報の共有を図っている。その人らしいゆったりとした暮らしが過ごせるように、何かしたいこと(散歩、買い物、家に帰りたいなど)利用者個々の希望に寄り添い、個別ケアの充実を目指している。なかなか自分の思いを伝えられない利用者には推察しながら本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や介護支援専門員、看護師、介護士など今まで携わった人からの情報を頂、ご本人の希望も含めた把握に努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や介護支援記録を毎日記入することにより全職員が情報共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で常に意見を持ち寄り情報交換を行っている。その上でご本人、家族様、必要な関係者と相談し、またカンファレンスの機会を取りながら進めている。	長期目標を1年、短期目標を6ヶ月としモニタリングは月1度は見直している。何か変化があればその都度対応している。職員から日々の利用者の様子や状況を確認し支援経過に記入している。介護計画を作成する時には利用者・家族・介護職員だけでなく主治医や看護師など必要な関係者の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と毎日の様子を連動させ記録して参考にしている。月1度はモニタリングで見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望に応じるように勤めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、ボランティアなど必要に応じて利用し、協力を要請している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の往診や必要に応じての受診を納得のいただける様に対応し支援している。	母体の南港クリニックの内科医より月2回、訪問診療を受けている。法人は外科・リハビリテーション科・皮膚科・泌尿科・整形外科等数多くの心療科があり利用者・家族には心強い。歯科医も歯科衛生士とペアで週1回訪問し、口腔ケアや必要に応じた治療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	南港病院、訪問看護の看護師と連携し相談しながら支援している。又南港病院の夜勤看護師が夜間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は随時面会に行き、退院後の受け入れを医師、関係者、家族様と相談して早期退院に勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階に応じて、ご本人、家族様、主治医と話し合い、職員全員で方針を共有しチームとして支援に取り組んでいる。	看取りの指針書を整備し、入居時に家族に説明し、同意を得ている。直近の6月にも2人の看取り経験をしている。ホームは長い歴史と共に数多くの看取りの経験を職員は積み重ねている。職員のレベルも高く、法人の看護師や医師と24時間の医療連携を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置と対応の研修に参加し研鑽を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル、連絡網を作成し、また年2回消防訓練時に避難訓練を実施している。	コロナ禍でもホームはこの2年間、年2回の消防非難訓練を実施し、所轄消防署に書類を届け、承認を得ている。食糧品や飲料水及び備品の最低限の備蓄を整備している。大阪南部の大きな台風も経験しており、地域に集中しているグループホーム施設が互いに飲料水等の備蓄をして、互いに協力を合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格に配慮し声かけや対応は職員同士で注意し、記録等の取り扱いに関しては個人情報保護規定を定めて対応している。	法人は「笑顔でを大切にする」を理念とし、ユマニチュードを母体の看護師から教育し、今やグループ全体に広がっており、より進化が期待できる。利用者1人ひとりの価値を尊重し、優しく接することを実践している。接遇研修の実施も定期的に行っている。不適切な言葉使い等に気づいた時は職員同士が互いに注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を増やし、説明を十分にしておいて自己決定が出来るように工夫した支援を心掛けてい る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活パターンを把握して、その人の生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問理美容が来て利用者の希望に応じてカットをしている。洋服の買い物を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の料理スキルも高く、ご利用者のリクエスト料理も積極的に取り入れている。無理強いすることなく調理のお手伝いをして頂いている。	外部業者から管理栄養士による献立と食材を調達し、ホームの職員が交代で朝・昼・夕食を作り、出来立ての食事を提供している。利用者は出来る範囲で手伝い、食事が大きな楽しみになっている。毎日の献立表には塩分も提示しているがスマホ等で「日本の塩の歴史」を参考にしてもいいですか。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はそのつど記録し不足分は他の飲み物(ジュースなど)補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、週一回歯科医の往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声かけをし、排泄記録、本人の排泄パターン等に配慮しながらトイレ誘導をしている。	職員は排せつパターンを把握し、トイレ誘導し排泄につなげている。自立排泄が出来る方も数多くいる。頑固な便秘には日々の水分補給や運動を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分量を十分に配慮して排泄記録、本人の排泄パターン等を考慮経過を観察しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望も聴きながら支援している。	2方向介助の浴槽で、基本は週2回の入浴が出来るように支援している。体調に合わせたシャワー浴や足浴の支援やゆず湯等、楽しい入浴も支援している。曜日の変更も柔軟に対応し、拒否する方には時間を置いたり、工夫して入浴につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、希望に応じて仮眠を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬の理解、把握に努め、情報を周知し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の利用者にあつた役割を担っていただき職員と楽しく生活をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへおやつを購入しに出かける。出来る限り個別の希望をかなえるようにしている。外出支援として、車で出かける行事も開催している。	コロナ禍で日常の外出が止まっているが日光浴や車を使った季節ごとの外出は行っている。毎月の行事を行い、利用者のストレスを軽減するようにしたり、ユマニチュードの一番大事な「立つ」行為を大切にしている。早く外出が毎日できるように期待している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は管理者が行っているが、本人が希望された場合は家族様とも相談して希望に沿っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に理解していただき、希望があれば電話連絡の対応をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと居室の模様替えをしたり、季節感を感じていただけるよう季節事に展示物を工夫している。	壁には七夕祭りの飾りを掛けたり、季節を感じる貼り絵や塗り絵及び利用者の手作り作品が飾られている。共用空間は清潔に保ち、家具の配置を考慮し居心地良く過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置いて各々が好きな場所で過ごせるように工夫し、模様替えもしながら気分転換をしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族様と相談し、居心地よく過ごせる様、また本人の使いやすいレイアウトを心がけ居室づくりを心掛けている。	思い思いに家具や置物及びテレビ等を持ち込み、馴染みの写真等を飾っている。仏壇やテレビを持ち込んでいる方もいる。ポータブルトイレを利用している方もいるが職員は臭いの処理も大切に清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の判ること、出来ることを把握しさりげないサポートが出来るように努めている、また体力作りにも努めている。		